

萬亀

B A N K I

2022年12月 vol. 140



[特集] 進化を続ける
東長寺

萬亀が
あたらしく
なりました



もくじ

- 1 住職挨拶
- 3 **[特集]**
**進化を続ける
東長寺**
- 8 **「結」を訪ねて**
—新連載
- 11 暮らしをととのえる
お寺のおはなし
—新連載
- 12 東長寺こども食堂
- 13 お知らせ
- 15 山内行事
- 17 東長寺基本情報
- 18 結の会のご案内

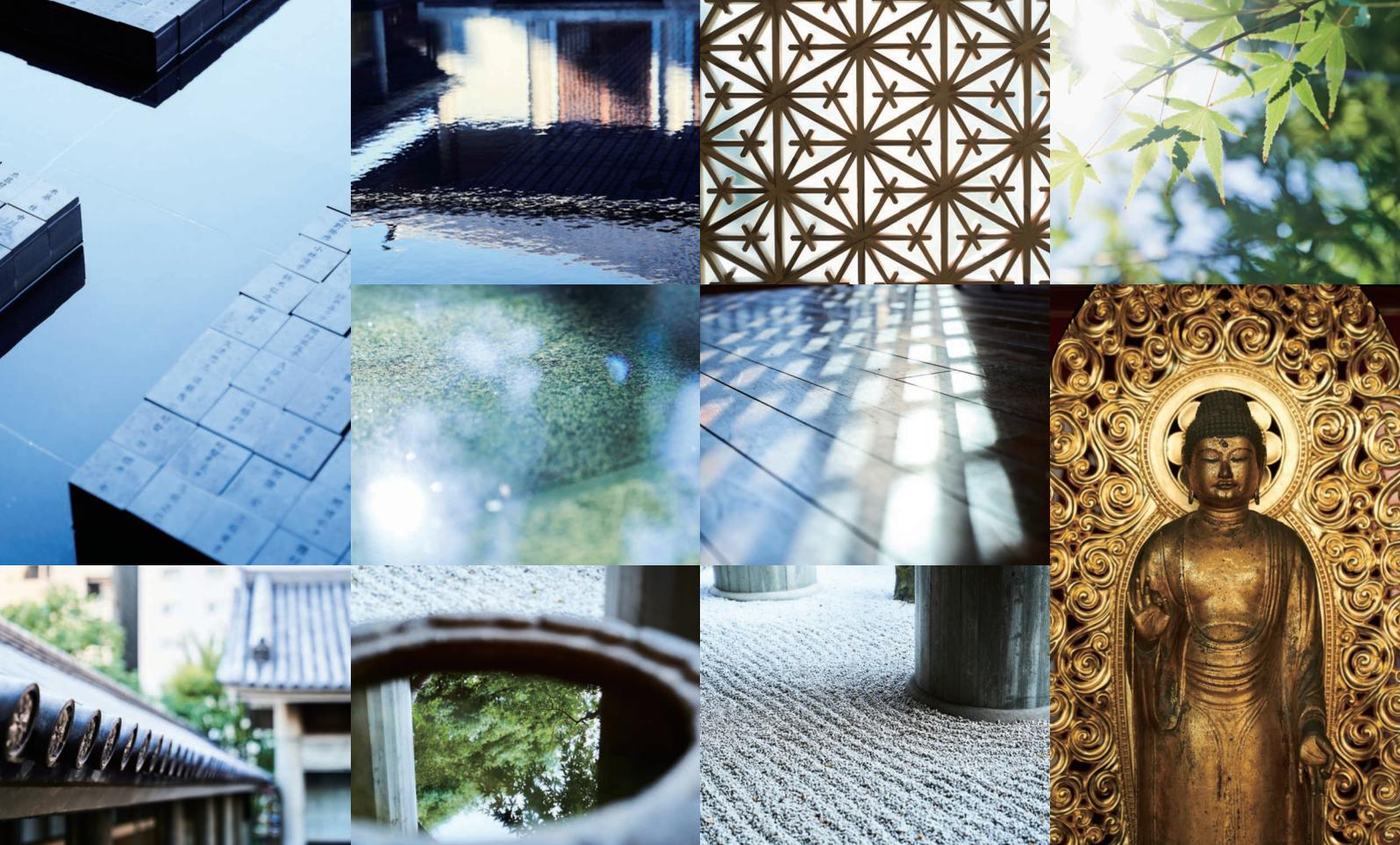
住職挨拶

先日、七歳になる息子が初めて書いた手紙に親バカながら心を打たれました。願わくばその宛先が私であればと思うその内容に思い知らされたのは、言葉の力を発したか以上に誰が発したのかによって宿る特別なものがあるということです。

仕事柄お話の上手な方が周りに多く、若い頃はそういった方々の言葉を聞く度に、それが自分が落とした言葉であったな

らば、と妙な嫉妬をしたりすることがあったのですが、それが不毛であると歳と共にようやくわかってきたのかもしれない。言葉が持つ力とは、結局のところ、いつどこで誰が発言したものに価値があり、それを私がただなぞった所でその半分

の価値も生まれません。
混乱する令和の時代の幕開けは、画一的な価値観を超えて、皆が同じユニフォームを着てい



れば安心できた社会を大きく変えてきているように感じています。それぞれが自分の持つ違った形の物差しで、違った尺度を測ることに私自身は楽しみを感じています。

今号より萬亀を新装刊行致します。文由閣建立を記念した特別号の記憶が新しい方には馴染みがあるかと思いますが、A4サイズへとリニューアル。より充実した内容にて、檀信徒皆様にも東長寺の試みをお届けし、「寺のある暮らし」のご提案にふとめたいと思っております。特に新装萬亀は若い世代の方にも関心を持ってご覧になっていただける内容にしていきたいと思っていますので、ぜひご自身の他にもご家族さまにもお読みいただければと思います。

今後の萬亀では、より人に焦

点をあて、人物が見える内容にすることを心がけたいと思っております。気仙沼や袖ヶ浦の住職方々が持つ素晴らしい言葉の力、それを嫉妬することなく皆さまと共有し、私も自分の言葉を探していききたいと思います。それは決して整えられた言葉でも、綺麗に彩られた言葉でもないかもしれません。しかし、誰かの尺度で測られた言葉ではなく、自分の言葉で伝えることに宿るものに期待しています。この萬亀が届く毎にお付き合いください。

山内では引き続き、最大限の感染予防対策につとめながら、皆さまのお参りをお迎えしております。年の瀬の砌、山内一同、皆さまが良いお年を過ごされることを心より願ひ、またの参詣をお待ちしております。

合掌

東長寺住職 瀧澤遥風

特集

進化を続ける 東長寺

檀信徒のみなさまと、共に歩み、共に在るために、東長寺は常に新鮮で活発でありたいと考えています。歴史を顧み、先人に思いを馳せつつ、今の時代と暮らしを見つめれば、大切に守り続けること、新しくなすべきことは何か、思いは尽きません。できることを一つ一つ、丁寧のみなさまと分かち合えたらと願っています。当山で行う新しい取り組みについてご紹介いたします。



「萬亀」が
新しくなりました



大きな紙面で読みやすく、 わかりやすく

手のひらサイズだった紙面の判型を、大きなA4サイズに変更しました。文字の大きさや書体は、読みやすさに配慮しながら再考いたしました。また用紙には、責任ある森林管理をしている林業者を応援し、世界の森林保全貢献につながる紙を使用しています。



新しいコラムや情報を盛り込み お寺をもっと身近に

寺とは本来、生きていくための智慧を身につける場所。葬儀や墓のためだけにあるわけではありません。当山がこれまで、美術や音楽など文化事業で多くの方々とは結び繋がってきた理由もここに 있습니다。今後も日常に取り入れられるお寺ならではのアイデアや、お寺を身近に感じていただくための情報を紙面から発信していきます。



新しくなっても 「寄り添う気持ち」は忘れずに

萬亀は今号で140号を迎えます。これまで、お寺になかなか来るところができない方や遠方の檀信徒の方にも、お寺の今現在や行事のご案内をしっかりとお伝えできるように心がけてまいりました。新たな紙面となっても、その想いはそのまま大切にしながら歩み続けます。

文由閣1階も 新しくなりました



完成イメージ

様々な人が使える より立ち寄りやすい 場所に

去る10月の終わりの3日間を
つかって、文由閣1階のロビー
改修工事を行いました。これま
でもりも開かれた「みなさんの
サロン」のような場所を目指し
ています。この背景には、コロ
ナ禍で人と人のつながりが薄れ
る中、いつの日か東長寺が縁を
絆ぐ場を回帰させたいという願
いがありました。

リニューアルに際し、打ち合
わせを重ねながら、当山の思い
を汲んだデザインを手がけてく

ださった山本春奈さん(株式会社
社デコール)によると今回、大
切にしたのは「自由度が高まる
こと」。そして「誰でも使える集
まりやすい空間であること」だ
と言います。建て付け式だった
受付机を取り払い、稼働式カウ
ンターに変更。繋げ方を変える
ことで、こども食堂や講習会な
ど多様なシチュエーションに対
応できるようになりました。ま
た、カウンターの大きさは対面
した際に圧迫感がなく会話がし
やすい距離となるように検証を
重ねたそうです。

さらに「誰でも使える集まり
やすい空間」であるために「温故
知新の象徴として新しい素材を
取り入れることにしました」と
山本さん。「文由閣は「文化の由
縁になる」場所となるよう設計
されています。マツの無垢床や
竹の格子天井、周囲に広がる水
盤など、自然との調和を大切に

文由閣の
リニューアル
デザインを
手がけた

山本 春奈さん
株式会社デコール
CS事業部 事業開発部

「コロナ禍で生活様式が変わったことでそれまでの暮らしに不便さを感じ、リニューアルのご相談を頂くことが増えてきています。今回、東長寺様とのお仕事もそうした流れの中で初めてご縁をいただきました。今後も文由閣の掲示板の新設など取り組ませていただく予定です」



▲改修工事1日目。
受付机が一部を残して
取り払われました。



◀インゴ・ギンター作
《Seeing Beyond
the Buddha (仏陀の
向こうに観る)》が改修
工事の様子を見守って
います。



ご来山の際に実際の仕上がり
をぜひ、ごらんください。



▲工事中もいろいろな
アイデアが浮かぶよう
で、山本さんは細かく
調整を重ねていました。

している空間です。後から作っ
たものの素材が、他にある素材
の存在感から浮いてしまわない
よう、素材の選定は特に慎重に
行いました。和紙や漆喰といっ
た日本古来の素材も検討してい
ましたが、柔らかな印象を与え
つつも、沢山動かせる長期的な
丈夫さも併せ持つ、リノリウム
という天然素材をメイン素材と
して選びました」
今回のリニューアルデザイン
を「新しい取り組みとして大変
やりがいがありました」と語る山
本さん。今後改修後のロビーが
「文由閣の名の通り、訪れる皆
さまのご縁を経由する穏やかな

コミュニケーションスペースとなれば
嬉しい」と期待の言葉もいただき
ました。現地では、すでに結の
会のスタッフが皆様をお迎えし
ています。まだまだ心の落ち着
かない日々ですが、ご来山の際
には文由閣に生まれた新たなス
ペースへ、ぜひお立ち寄りいた
だければと思います。



左より、
畑野、宮坂、根橋です。
皆様よろしくお願
いいたします。

結の会の運営には、今年4月よ
り新たなスタッフが加わっていま
す。縁の会創設時より在籍して
いる村田とともに皆様からのご
相談やお問い合わせ、セミナーの
開催などを担当中。山内でお目
にかかりましたら、ぜひお声がけ
ください。

NEWS
文由閣では
結の会・新スタッフが
皆様をお待ちしています

結の会納骨堂(龍樹堂)で

「ペット共葬」が

はじまります



会員の皆様のご理解の上に

このたび、結の会でペット共葬の受付を開始することになりました。これまでではご希望の方だけにご紹介してきた東長寺のペット共葬(埋葬地は袖ヶ浦の真光寺「樹林葬」のみ)ですが、今後は文由閣「龍樹堂」、気仙沼の清涼院「樹林葬」でも受付けることといたします。

決定に際し、680名にのぼる結の会会員の皆様にご了承をいただきました。ペットのある方も、そうでない方も「他者のしあわせ」を認め合えたことをここに深く感謝いたします。

多様化・変化する家族の「かたち」

これまで、東長寺は都会に暮らす人々の墓や供養にまつわる悩みを受け止めてきました。悩みや課題の中で、重要なキーワードとなってきたのが「家族」です。独りという家族、夫婦だけという家族。激しく変化する現代を映し出す鏡のように、家族のかたちは多様に変容してきました。そして近年、新たな実感として広がりつつあるのが「ペットは家族」という考え方です。単に可愛がる愛玩動物という感覚を超え、かけがえのない存在としてペットを扱い、ともに暮らす。そのような「家族」の在り様を、檀信徒の皆様の中にも見出すにつけ、東長寺はその姿に寄り添いたいと考えてきました。

そんな折、世界を襲った新型コロナウイルス。他者同士の繋がりが分断され、ペットを心の拠り所とする気運はこれまでになく高まるなか、当山の考えを、はつきりと皆様に示すべきだと考え、今回の発表に至りました。詳細について、現在最終の調整を行っております。先じてペット共葬をご希望される会員様は、結の会事務局までお問い合わせください。

真光寺で出会った猫▶



清涼院・真光寺で伺う

ペットと弔い

「ペットと家族」現在の求めに応えたい——清涼院

古くからの檀家も多い清涼院。ペットと人との共葬はまだ珍しいといえる中、2年前に山内に専用のペット合葬墓を建立。すでに10件以上の受入れを行っている。「我が子のようにペットを大切にする気持ちは確実に浸透してきていると感じる。今後、時代の求めに応えていきたい(副住職 三浦賢道師・談)」

「ひとと動物も供養する命に差は無い——真光寺」

当初より、ペット共葬を受入れてきた真光寺。犬・猫に加え、鳥や爬虫類、猪など様々な動物たちが、その「家族」によって弔われてきた。「人のほうが動物よりも尊いということはなく、全ての命は等しい。ペットが動物だからといって拒む理由はありません(住職 岡本和幸師・談)」

縁の会会員様は、結の会への契約変更によりペット共葬が可能となります。詳しくは結の会事務局(18ページ掲載)までお問い合わせください。

「結」を訪ねて

[新連載]

東京・宮城・千葉
「結の会」がある町

2015年に発足した「結の会」の特徴は、都会にある参り墓と、自然に囲まれた樹林葬による参り墓を組み合わせた「両墓制」にあります。当山では、皆様にこの2つの生前墓を積極的に行き来していただきたいと考えています。今後萬亀では、「結の会」の基点となるお寺を訪ねて、その魅力を少しずつご紹介していきます。

ぜひ実際に現地を訪れて、自然に触れ、お寺を訪れる人々やお墓を護る住職と語り合い、ご縁を育んでください。そこで生まれる環境への慈しみ、地域の活性化が個人のなかに留まらないエネルギーになると信じています。

東京

新宿区「東長寺」

東長寺のある町は こんなところ

東長寺の住所「四谷4丁目」は、かつて旧街道を往来する旅人が休める茶屋が4つしか無いことから転じて「よつや」と呼ばれるようになった場所です。現代は小さな子供のいる働き盛り家庭から高齢者まで幅広い世帯が暮らす新宿区きっての住宅街です。

東長寺の訪ね方

ご先祖のお墓参りだけでなく、山内の様々な行事やイベントを目的にお訪ねください。昨今の情勢を注視し、感染予防を行いながら、少人数での集いを少しずつ再開しております。

東長寺が地方寺と コラボする理由

「死後は自然に還りたい」という人々の思いを受け止めつつ、樹林葬によって地方寺院と人の交流が生まれることで周囲の山林や自然環境が保全・再生されていくことを理念にスタートしました。

東京
東長寺

宮城
清涼院

千葉
真光寺



「ここは漁師町だから言葉が端的、そして荒い。
でも根はあったかい人が多いんです。」

清涼院 住職 三浦光雄師



清涼院(空撮)
写真中央の大きな屋根が本堂。結の会の埋葬地は、そのちょうど手前側に映っている森の中にある。奥の方で青く輝いているのは「大谷海岸」。白い砂浜が続き夏は海水浴客で賑わう。

宮城

気仙沼「清涼院」

清涼院のある町は こんなところ

震災から11年。復興工事活動を経て観光誘致を目指し、今も大きく急速に変化を続ける気仙沼。一年を通じて水揚げされる豊富な魚介類、そしてお酒が美味しいところでは、



町のシンボル恵比寿像

清涼院の訪ね方

東北新幹線の一ノ関駅から車で約1時間。気仙沼駅からは車で約20分。ご住職とお話するだけでも楽しいですが、清涼院で不定期に開催される音楽イベントや「はまわらす」の活動に併せて訪問するのもおすすめです。

三浦光雄住職



穏やかな11月の某日、清涼院を訪れました。本堂前から見下ろすと、すぐそこに海が見え、右手にはカモシカやムササビが棲むという針葉樹の森が広がっていました。ここが結の会「樹林葬」の埋葬地です。
高台にあるお寺ですが、震災のときはすぐそばまで津波が押し寄せました。その後5ヶ月間、避難療養所・ボランティア団体の拠点となった当時、お寺に取材に訪れたテレビ局のクルーは驚いたといいます。過酷な状況なのに、何故か誰もが明るい、と。大切な人を失ったり、電力や水道も復帰しない中だというのに。その秘密はお寺を護る三浦住職の「人間愛」にあ

るようです。気仙沼は元来人と人の心の距離が近く、コミュニケーション無くして生活はできない場所。「自分も心を開かないと相手だつて飛び込めない」と語る住職の元で、交流と安らぎが生まれたのではないでしょう。か。
現在も人を集めるお寺の力は変わらず、「はまわらす」の活動拠点や、ジャズやロックのコンサート会場となっています。イベントはあくまで希望者を受け入れているだけなのだと思います、理由は簡単と住職。「生きている人間が好きだから。それだけなのです」
復興の先を見据え変化を続ける気仙沼。ここには海のように広々と開かれているお寺「清涼院」が待っています。



真光寺のある町は こんなところ

畑や森が連なる静かな里山。お寺の周囲は東京ドイツ村や出光の研究所、ゴルフ場といった施設に囲まれているものの、住職は「寺の周りは取り残されたようなところがある」とも。



アクアラインが便利

真光寺の訪ね方

東長寺からアクアラインを経由すれば車で約1時間。お寺ではどなたでも参加できる坐禅会、寺ヨガ、仏像彫刻会、里山ウォークなどのイベントを定期的開催中。庭園のように整備された樹林葬墓地を散歩するように訪れる人の姿も見られます。

岡本和幸住職

真光寺を訪れたのは11月の週末。

少し混雑したアクアラインを抜ける
と程なくしてお寺に到着。ぱっと開
けた空の下、庭園のような墓地が広
がっていました。美しい今の姿から
は信じられないことに、かつてここ
は荒廃した無人寺でした。本堂の天
井は抜け、竹が生い茂っていたとい
うこの一帯。それでも「ここでやろう」
と決めた岡本住職には、当初から大
切にしていることがあります。お寺
周囲の「地域」と「都市」、そして「自
然環境」への眼差しです。「都会の人
にお墓を売るだけでは地域の人は面
白くないでしょう？ 皆仲良くしよ
うというのがお寺の意義ですから」

そこで広大な土地を整え、自らお堂

を建立。都会から人を呼び寄せると、
地元の人にとっては日常の一部だった
里山の風景に訪問者の多くが感動し、
「この寺の魅力を考えたら、一番は自
然環境との共存」と語る住職に共感が
広がる中、地域の信用も得られるよ
うになったといいます。現在真光寺で
行われるイベントや、周辺の棚田再生
活動には地元・都市部問わず参加者
を迎えています。活動の理由を「社会
に貢献する寺院じゃなきゃこれからは
生き残れない。でも生き残りのために
やっているのではなく、それが釈迦
の願いだから」と住職。真光寺に人々
が集う秘密を垣間見る一言でした。

「この寺は誰一人知らないような寺だった。
だからこそ、人を呼ぼうと考えた。」

真光寺 住職 岡本和幸師



真光寺(空撮)

手前に見える三角形の屋根が「慈嶽堂」と名付けられた新しい薬師堂。東長三十三世重興慈嶽和夫大和尚の葬儀で使用された木材が活用されている。

暮らしをととのえる

お寺のおはなし

年末年始「お餅」の役割とは



人参をお日様に見立て、まん丸に切ったり、柚子の松葉切りを乗せれば、難しい飾り切りでなくても特別な一皿に。



日 本のお正月に欠かせないお餅。東長寺では毎年12月28日にお餅つきを行い、山内にお供えする鏡餅と新年にお配りする紅白餅を用意しています。本堂・水の苑を背後に控えた山門の下、住職による榎初(つきぞめ)で始まるお餅つき。かつてはすべてのお餅を僧侶や職員、檀信徒の皆さんの手で行っていました。お配りするお餅の衛生面を考慮して、現在は餅つき機も併用しています。

日本には古くから、お米の収穫を祝い恵みを尊ぶ文化がありました。そんなお米を凝縮させるように作られるお酒やお餅は、祭事やハレの日の捧げ物として重要な役割を担ってきました。なかでもお餅は餅米を臼と杵を使ってつきあげながら出来ることから命や魂の象徴とされ、神仏へのお供えを経てか

らヒトが食することで、霊験あらたかな力もいただくことができます。東長寺でも本堂をはじめ、全てのお堂にお供えします。

鏡餅と同時につくるのが、紅白餅。除夜の鐘が響き、新年を迎えた直後に執り行う年始法要で無病息災の御祈禱をしたのちに、初詣された方へお配りしています。数にかぎりがありますが、もしもお受け取りなさたらお餅に込められた願いや想いを感じながらお雑煮にされてはいかがでしょう。いつもは戸棚に大事にしまっておくよう、な、ちよつと良い器を用意して、お盆やお箸置きもきちんと並べて背筋を伸ばし、いただきましょう。

新年の改まったひとときを、お餅を通じてご家庭とお寺で共にできたらと願っております。



とうちょうじ しょうどう 東長寺こども食堂



子連れの方ならどなたでもご利用いただける、食事の場と、遊び、学びの場を提供するためにボランティアスタッフが運営しています。

こども、そして保護者にとっての居心地のよい場所であることを大切にしています。

※現在は食堂形式ではなく、お惣菜の持ち帰りを行っています。詳しくはお電話またはLINEにてお問い合わせください。

LINE IDは
こちら！



涼しくなった頃から
お惣菜の持ち帰りを
再開しました。

こども食堂のメニューはなるべく季節を感じられるものを作るように心がけています。新米の季節になり、皆様からたくさんのお米を頂戴いたしましたので、先日はキノコをたっぷり入れた炊き込みご飯を作りました。しめじ、舞茸、椎茸と鶏肉、油揚げをお醤油、お酒、お砂糖で煮て、その煮汁でご飯を炊き、炊きあがったところに具を混ぜ込みます。大きなお釜で120人分のお米6升を炊き上げました。まだ温かいごはんを「おいしそう」「楽しみだね」と持ち帰っていく様子を見るとこちらの心もあたたかくなります。

ひとり親家庭の中にはお子さんを預けられるようになるとお仕事もフルタイムで復帰され、残業や出張などもこなしながら子育てをなさっている方もいらつしやいます。ある程度の収入を得ているからこそ、ほんのわずか収入が多いばかりに行政の子育て支援を受けられないというケースもあります。

こども食堂を始めた頃に「相対的貧

困」という言葉を覚えました。生命の危機に瀕するほどの経済状態ではないため、周囲からすると貧困状況にあるように見えません。こどもがまだ小さなうちは何かと支援策もありますが、この状態にある10代のこどもは、家計を支えるために毎日アルバイトをしていたり、進学を経済的理由からあきらめざるを得なかったりします。こうした状況は、学歴や学力差による就職先の選択肢減少や、その後の収入格差にもつながり、貧困の連鎖につながる問題となっています。

前述のひとり親家庭のように、「相対的貧困」には当てはまらない、けれども余裕はないのだというご家庭もたくさんあるだろうと想像します。ひとの痛みというのは感じるのが難しいものです。だからこそ「子育て中のご家庭なら誰でもどうぞ」という姿勢をずっと守っていきたいと思うのです。



(参考：この日のメニュー)

- ◆キノコの混ぜご飯
- ◆鮭塩焼き
- ◆白菜とほうれん草、にんじんの胡麻和え
- ◆わかめの味噌汁(インスタント)

こども食堂にご賛同いただき、ご寄附くださった方々

渡邊 友子様・鳥潟 和子様・小長井 武夫様・小野 良子様・瀧澤 紀雄様・高橋 尚子様・峯 孝仁様・山近 久子様・IDホールディングス様・小谷津 敏恵様・中村 ゆき子様・丸山 美和子様・石川 久吾様・木下 純治様 匿名ご希望 7名様 皆さまのご協力に心より感謝申し上げます

紙を使用することに決めました。



FSC® 認証は責任ある森林管理を認証する制度で、世界森林保全に貢献しています。SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」に合致する用紙です。環境のことを考え、今回の萬亀ではFSC® 認証紙を使用することに決めました。

萬亀に使う紙を
森にやさしい
「FSC® 認証紙」に
変えました

東長寺のSDGs

引き続き、お米や食品、またはお米券や余っている商品券などを募集しております。尚、ご送付の際は、お手数ですが、内容・日程等を、事前にご連絡いただけますようお願いいたします。また、「こども食堂宛に寄付金を送金したい」という有り難いお声を受けて、振込口座を開設しています。

● ゆうちょ銀行(郵便局)から振り込む場合

[口座記号番号]00160-1-768735
[口座名称]トウチョウジコドモシヨクドウ

● 他の銀行から振り込む場合

[銀行名] ゆうちょ銀行 [店名] 〇一九(ゼロイチキュウ)
[店番] 1019 [口座番号] 当座0768735
[口座名称] トウチョウジコドモシヨクドウ

[問い合わせ] 03-3341-9746 東長寺(担当:金剛地)

東長寺では、持続可能でよりよい世界を目指しながら「誰一人取り残さない」という国際目標「SDGs」の実現に身近なことから取り組んでいます。このページでは、こども食堂の活動を中心に、その他のSDGsアクションをご紹介します。

お知らせ



昨年、山内職員で行ったお餅つきの様子です。今年も搗きたてお餅の配布はありませんが、引換券をご用意します。詳しくは15ページをご覧ください。

もうすぐ大晦日・お正月！

今年は感染対策を
しながら内献以外の
道を進めます

年末年始は忙しさの中にも、
新年に望みを抱く特別な空気が
漂いはじめる気がいたします。
近年は新型コロナウイルスの感

染状況を見据えながら、心苦し
くも内献とする行事が多々続き、
今年はどう開催するべきか、山
内でも熟慮と検討を続けており
ました。そして、人数制限など
の対策をしながら、できる限り
檀信徒の皆様にもご参加・ご参
列いただくことといたしました。
皆様におかれましては、体調や
ご都合など無理のない範囲でご
検討いただければ幸いです。

2022年
12月28日開催

さんげ え 懺悔会について

懺悔会は、この一年の行いを懺悔し、自分自身を見つめることが主眼の法要で、毎年年末に厳修しております。普通は、懺悔(さんげ)と濁って読みますが、仏教では懺悔(さんげ)と濁りません。「懺」はサンスクリット語の「kṣama(サンマ)」の音訳で、サンマは「辛抱強さ」「忍耐」「許す」という意味を持ちます。また「悔」は過去の罪を追悔するという意味があります。懺悔とはお釈迦様に対して過去に犯した自らの罪を告白して、許しを請い、悔い改めることを誓うことを言います。失敗や失言を引きずるのではなく、「同じ過ちを二度としない」と心に誓うことが大切です。心身ともに清浄にし、来たる新年を心新たに迎えましょう。



懺悔会(昨年の様子)
黄色い紙が皆様からお預かりした懺悔帳です。今年も用紙を寺報に同封しております。今年の懺悔を書き出してみましよう。

添菜单

須田 早野江様(雑巾たくさん)
古田 律子様(コースター、しおりたくさん)
前田 高雄様(切手、文房具たくさん)
上田 俊子様(雑巾たくさん)
島津 八重子様(タオルたくさん)
生方組様(お米たくさん)
坂元 和子様(タオル、プリザーブドフラワー作品たくさん)
廣川 貞雄様(お米たくさん)
匿名ご希望 2名様
誌面をもって深くお礼申し上げます

開催済 山内行事のご報告

■秋彼岸会法要

(九月二十三日、二十四日)

本年度の秋彼岸会法要は、新型コロナウイルス感染症予防のため、二日間におたり各日とも三座に分けて厳修いたしました。特に中日の二十三日にはご参列のみならず、多くの方にご参詣いただきました。皆様にお目にかかることができ、ご近況などを伺えて大変嬉しく有難いこととございました。

■山門大施食会法要

(十一月三日)

人数を限定し、少人数でのご参列

本年もチョコ募金に協力いたします

本年も、医師の鎌田實さんが代表理事である「日本イラク医療支援ネットワーク」の、チョコ募金に協力いたします。チョコ募金は、イラクの小児がん患者支援、シリア難民・イラク国内避難民支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動に使われます。「六花亭」のチョコレートが5つ入っていて、缶のパッケージには、イラクやシリアの子どもの絵が描かれています。寺務所受付にて扱っておりますので、お参りの際にお買い求めいただけます。幸い。 (4缶1セット2000円)

となりましたが、清々しいお天気の中、皆様とご一緒に法要をおつとめすることができました。ご先祖様や特定の個人を超えて、諸精霊、生きとし生けるすべての命に對して感謝し、共に供養するのが大施食会の目的です。常とは異なり、須弥壇と正対する位置に施食棚を据えてご供養いたしました。



大施食会の様子

各種教室・同好会のご案内 (12月～3月)

新規のご参加は受付けておりません。
今後のウイルス感染状況により、休会となる場合があります。

■写経の会 お経の会

第三金曜日 午前11時より
2022年 12月16日(金)
2023年 1月20日(金) 2月17日(金) 3月17日(金)

■碁縁の会(囲碁)

第2・第4木曜日 午後1時より ※2月は変則的な開催となります
2022年 12月22日(木)
2023年 1月12日(木)・26日(木)
2月2日(木)・9日(木)
3月9日(木)・23日(木)

■折り紙教室

第3木曜日 午後2時より ※ご案内の日程は暫定となります
2023年 1月19日(木) 2月16日(木) 3月16日(木)

■太極拳

水曜日(月3回)
2022年 12月21日(水)
2023年 1月11日(水)・18日(水)・25日(水)
2月8日(水)・15日(水)・22日(水)
3月8日(水)・15日(水)・29日(水)

■坐禅会

土曜日(不定期) 午後6時より
2022年 12月10日(土)・24日(土)
2023年 1月14日(土)・28日(土) 2月25日(土) 3月11日(土)

- 仏教讃歌を歌う会 ● そば打ち同好会 ● 水彩画同好会
- お掃除ボランティア ● 以上は休会といたします

山内行事

2022.12月
2023.2月

- ◆マスクを着用し、手指を消毒の上ご参加ください。
- ◆参加当日は、ご自宅で体温を計っていただき、公共交通機関をご利用の方は十分に気をつけてお出掛けください。

一 大掃除

〔日時〕12月21日(水)／13時～(終了15時予定)

今年皆様さんとご一緒に山内の大掃除をしたいと思えます。ご都合のつく方はぜひご参加くださいますようご案内申し上げます。動きやすい服装でお出でください。

一 懺悔会

〔日時〕12月28日(水)／午前9時半から

仏教では「懺悔を」さんげ」といいます。懺悔会は、一年の行いを懺悔し、自分自身を見つめることが主眼の

法要です。

懺悔帖に自らの罪過をご記入いただき、仏の名を唱え何度も礼拝した後に、お焚き上げをいたします。来る新年を心新たに迎えるために、心身ともに清浄にして、災障消除をお祈りいたしましょう。

●参列は限定30名様まで(予約なし、先着順)とさせていただきます。

〔同封の用紙について〕

本来ならば懺悔会にご参列の上、ご祈禱を受けていただくべきところではございますが、同封の懺悔用紙に今年一年の行いを振り返り自らを律する思いをご記入いただき、縦半分に折りたたんで内容が見えぬよう用紙の隅を糊付けしてください。

12月25日(日)までにご郵送いただくか、またはお参りの際にお持ちください。

一 餅つき

〔日時〕12月28日(水)懺悔会に引き続き行います。(13時頃まで)

山内すべてのお堂にお供えする鏡餅と、年始法要にお配りする紅白餅を作っています。

楽しみにしてくれる子供たちのためにも伝統行事を絶やさぬよう努めてまいりたいと思えます。

本年は掲げたてのお餅のご提供は致しません。代わって、後日のお引渡しとなりますが、丸餅(6ヶ入)を30組用意いたします。法要終了後、懺悔会にご参列の方から優先して引換券をお渡しいたします。

〔お餅引換方法〕

①餅つき当日(12月28日(水))に引換券をお受け取りください(限定30枚、先着順)。

②12月30日(金)～1月3日(火)の10時～16時半の間に受付にてお餅とお引き換えください。



餅つき(昨年の様子)

一 歳末法要・除夜の鐘

〔日時〕12月31日(土)
歳末法要…午後11時15分から



除夜の鐘(2019年の様子)

除夜の鐘…午後11時30分から
終了後、引き続き年始法要を行います。

大般若を転読し、新年の多幸を祈念いたします。ご自身の幸を祈るとともに、世界の人々の平和をご一緒にお祈りいたしましょう。

●法要参列は限定30名様まで(予約なし、先着順)とさせていただきます。参加にあたり体温を測定し、氏名、住所、連絡先の記入を必須とさせていただきますので、ご協力お願いいたします。

※年始法要終了後、ついでに法要を行います。通常と時間が異なりますのでご注意ください。

大般若祈祷会

【日時】2月11日(土・祝)

午前・10時半受付 11時打ち出し

午後・1時半受付 2時打ち出し

「大般若経六〇〇軸」を転読して、皆様の所願成就・災障消除・諸縁吉祥を御祈祷いたします。この転読の際に出る風に当たると無病息災になるといわれています。午前午後の二座に分けておりますので、ご都合に合わせてご参列くださいますようご案内いたします。

●参列は予約制、先着30名様とさせていただきます。

ご希望の方はお電話にて2月1日(水)までにお申し込みください。

なお、おしのご(お弁当)のご用意はございません。

御祈祷料 一願につき 五千円

願い主のお名前と願文を木札にお書きし、ご祈祷いたします(現金書留、または当日お納めください)。

御祈祷札のお申し込みは、ご希望の願文を選び、同封のハガキにて2月

1日(水)までにご返信ください。



御祈祷札について
願い主のお名前と願文(右記見本では「心願成就」を木札にお書きし、御祈祷いたします。

御祈祷札 願文例

【願文】 【意味】

心願成就 心にある願い事がかないますように

家内安全 家族が無事でありますように

交通安全 交通事故にあいませぬように

傷病治癒 病気や怪我が治りますように

身体健全 健康でありますように

世界平和 すべての人が平和でありますように

合同法要(季節の行事)のお布施が郵送で届いた際に、受取済のご連絡ができません。礼儀に欠くことなく対応できず申し訳ございませんが、予めご了承ください。

ぜひご参列を!

2023年
2月11日開催

大般若祈祷会について

大般若祈祷会は「摩訶般若波羅蜜多經(大般若経)の經文をお唱え(転読)することにより、その功德をもつて世界の恒久平和や参列された方の平安などを御祈祷する法要」です。

『大般若経』は、三藏法師玄奘(602~664年)が晩年の4年余りの年月をかけて翻訳した、あらゆる仏典の中で最大規模を誇る經典です。大乘仏教の空思想に基づく般若思想を記録したもので、字数約500万字、全部で600巻となります。玄奘三蔵はこの訳出を終えてすぐに亡くなってしまいましたが、生中に經典の翻訳が終えたことについて、諸仏や龍天の助けがあったと述べたことから、この經典が国家や民衆を守ってくれると信じられ、「大般若会」の設立となりました。

記録によると、日本では703年に藤原京にあった四大寺(朝廷

の祈願所となる四つの寺院)に、文武天皇が命じて行わせたのが始まりと言われています。平安時代頃までは、薬師寺や興福寺などの大きな寺院で国家的な法要として行われ、天災や火災、それに伴う飢饉、疫病の流行などの大惨事が発生した折々に、災害を消除し国家安寧を願いました。737年より奈良にある大安寺で毎年行われるようになり、中世に至って全国に広まりました。

昔はごく一部の大きなお寺でのみ行われ、大勢の僧侶(記録では150人の僧侶)により、大般若経を膨大な時間をかけ、すべて読み上げるというものでしたが、徐々に、地方の小さなお寺でも行えるようになり、「転読」という方法が主流になっていきました。転読の際に、經本を左右前後に傾けながら起こす風「般若の梵風」にあたれば、一切の災いを吹き除くといわれています。

東長寺 情報

■開門時間について

午前9時から午後5時までといたします。

■電話での対応

午前9時半から午後4時半までといたします。

【代 表】03-33341-9746

【縁の会】03-33353-6874

【結の会】03-5315-4015

■御葬儀について

山内葬儀、出張葬儀ともに、三密（密接・密閉・密集）に十分留意しながらおつとめしております。ご参列につきましては、なるべく近しい方のみに限っていただき、

ご会食はお控えくださいますようお願い申し上げます。

●通夜、告別ともに、僧侶の食事の同席は控えていただいております。

●生前葬儀契約をなさっている場合には、お食事は折詰弁当等をお持ち帰りいただいております。

■年回忌の法要について

年回忌法要は通常どおり承っております。

■参列者なしでの年回忌の法要

ご来山なさらずとも、参列者なしでの年回忌の法要も承っております。

■お墓参りについて

開門時間内にお参りください。体調の悪い時は、お控えください。少人数にてご来山いただき、マスク着用の上、三密を避けてお参りくださいますようお願いいたします。

■ついでに法要について

毎月ついでに、その月に亡くなられた方のお名前を読み上げ、ご供養しております。現在は日中の法要として、おつとめしております。

法要開始午前11時

ご参列は30名限定の予約制にて承っております。ご希望の方は、電話にてお申し込みください。

なお、1月1日は年始法要に続いて行いますのでご注意ください。

●ご参列の有無にかかわらず、花とうばを承っております。電話またはFAXにてお申し込みいただき、お支払いは現金書留にてご郵送、または次回ご来山の際にご持参ください。

【電 話】03-33341-9746
【FAX】03-33341-2150

■年間行事

- 1月1日(日) 年始法要・三朝祈祷
- 2月11日(土・祝) 大般若祈祷会
- 2月22日(水) 開山忌
- 3月18日(土) 24日(金) 春彼岸会
- 3月21日(火・祝) 春彼岸会法要
- 4月8日(土) 釈尊降誕会・花まつり
- 5月26日(金) 観音供養祭・護持会総会
- 7月2日(日) 新盆合同法要
- 7月13日(木) 盂蘭盆会法要
- 8月11日(金・祝) 月遅れ盂蘭盆会法要
- 9月20日(水) 26日(火) 秋彼岸会
- 9月23日(土・祝) 秋彼岸会法要
- 11月3日(金・祝) 檀家大施食会
- 11月23日(木・祝) 縁の会・結の会大施食会
- 12月28日(木) 懺悔会・もちつき
- 12月31日(日) 歳末法要・除夜の鐘

東長寺内の感染症対策

受付にアルコール消毒液をご用意しています。

随時、山内各所の清掃・消毒に努めています。

職員は全員マスクを着用し、手洗い消毒を徹底しています。

山内は十分に換気をし、本堂でのおつとめの際は、窓を開放して行っています。

職員は時差通勤し、出勤日数を減らしています。

※コロナ禍の対応として事務職員時差出勤などのため、事務手続きなどに遅れが生じる場合もございますがご容赦下さいますようお願い申し上げます。

次号予告

萬亀

2023年3月号 vol.141

【特集】

東長寺の考える
ペット共葬とは。

※内容は変更になる場合があります。

永代供養墓

結の会のご案内

無縁の縁を結ぶ

～時代を見据えた新しい祈りの形～

これまでの血縁を中心とした供養の形にしばられず、遺族に負担をかけずに、
自分の人生観、死生観にたって、選ぶことのできるお墓です。



文由閣4階 龍樹堂(納骨堂)

納骨堂の資料請求・見学予約はお気軽にお問い合わせください

インターネットでご紹介

<http://www.tochoji.info>



お電話又はメールでお問い合わせ

TEL. 03-5315-4015 電話受付時間
9:30～17:00(日曜・祝日も受付)

MAIL toiawase@tochoji.org

宗教・宗派は問いません。どんなことでもお気軽にお問い合わせください



東長寺寺報 萬亀

2022年12月号(第140号)

発行所: 曹洞宗 萬亀山 東長寺

発行日: 2022年12月15日

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-34

(代表) TEL.03-3341-9746 FAX.03-3341-2150

(縁の会) TEL.03-3353-6874

(文由閣・結の会) TEL.03-5315-4015



www.tochoji.jp

このパンフレットは
FSC®森林認証紙
を使用しています。

FSC®認証は責任
ある森林管理を認
証する制度です。

